

<p>【イベント名】 第1回 チリ消化器病学会テレカンファレンス</p>	<p>【概要】 チリは胃癌罹患率と死亡率が高い。早期胃癌の内視鏡診断は治療を成功させるために非常に重要である。本カンファレンスでは、患者の前処置や適切な内視鏡技術の重要性をレビューし、前がん病変や早期胃癌の診断のためのバーチャルスライドによる視覚的な組織学的評価の限界について検討を行った。さらに、日本の内視鏡医がNueva Imperialキャンペーンでの自らの経験を発表した。</p>
<p>【期日】 2017.11.30</p>	
<p>【会場】 ホテル デ・ラ・バヒア (チリ), 九州大学病院 (日本)</p>	



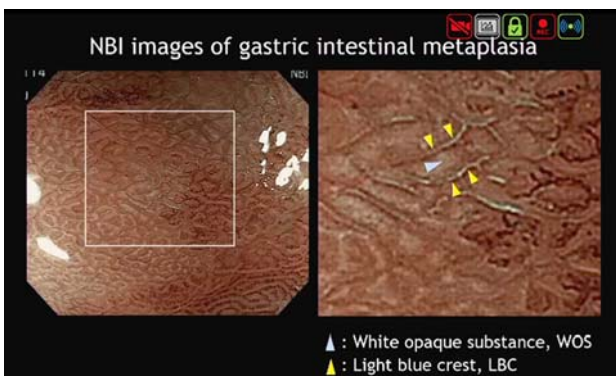
ホテル デ・ラ・バヒアでの会場の様子。

撮影場所：ホテル デ・ラ・バヒア



九州大学病院から参加したDr. 八尾(左)とDr. 森山(右)。

撮影場所：九州大学病院



提示されたスライド。

撮影場所：九州大学病院



第1回チリ遠隔医療ワークショップの様子。

撮影場所：九州大学病院



座長や技術者らの集合写真。

撮影場所：ホテル デ・ラ・バヒア



第1回チリ遠隔医療ワークショップの集合写真。

撮影場所：ホテル デ・ラ・バヒア